

仙台塩釜港で校外学習を実施（南材木町小学校3年生）

塩釜港湾・空港整備事務所

1. 見学会の様子

10月30日（火）仙台市立南材木町小学校3年生約60名のみなさんが、仙台塩釜港で港の役割を学習しました。

当日は、海鳥の鳴き声や汽笛が鳴り響く青空の下、港を見渡せるマリングート塩釜の屋上ウッドデッキから港の学習をスタートしました。塩釜港区にはどのような船が入って、どのような荷物を運んでいるのか？目の前に広がる松島湾には、どのような生き物が住んでいるのか？などについて説明しました。マリングート塩釜のデッキ上からは、造船所、松島を巡る観光船、工事用作業船、魚市場や松島の美しい島々を見学し、お昼時間には近寄るカモメに心を奪われている場面もありました。

質問、昼食休憩を挟んだ後、一行はバスで仙台港区の高砂コンテナターミナルに向かいました。移動するバスの車窓からは、油槽所の石油タンクや接岸中のフェリー、船積み待ちの完成自動車など、みなとの利用状況を見ていただきました。港町の雰囲気が残る塩竈市から仙台市方面にバスを進めるにつれ、エネルギーや物流の拠点象徴する施設が見え、塩釜港との違いに気が付いていきます。

いよいよ東北最大の海上コンテナの発着所（高砂コンテナターミナル）に到着しました。管理棟の屋上からは、縦横無尽に走るストラドルキャリアがトラックにコンテナを積み替える様子を見て、そのダイナミックな動きに、先生も児童も大興奮でした。学習会の終盤の質問タイムでは多くの質問が出され、時間の都合により途中で質問を打ち切って、後日質問をいただき、回答することにしました。

見学の様子～マリングート塩釜～



海鳥も児童を歓迎



コンテナの積み卸しを、カブリツキで見入る



質問タイム～高砂コンテナターミナル～



2. 児童から寄せられた質問と回答

〔塩釜港区〕

Q：塩釜港区の金属くずは何に使うのですか？

A：塩釜港区には車のリサイクル工場があります。金属くずを溶かして鉄鋼などをつくり、新しい自動車部品や建設資材に使います。リサイクルされるのです。

Q：船は1日に何隻ぐらい出入りしますか？

A：年間15,334隻の出入りがあるので、1日平均42隻の船が出入りしています。

Q：塩釜港区の石油タンクは被害がありましたか？

A：津波で浸水しましたが、仙台など他よりも被害が小さかったため、震災後わずか10日後には、ガソリンを積んだタンカー船を入れることができ、ガソリン不足の解消に役立ちました。

〔仙台港区〕

Q：コンテナターミナルにあるコンテナの数は？

A：今何個あるかは分かりませんが、3.11地震の当日は約4,400個のコンテナがあり、その内1,800個が津波によって流されました。

Q：トレーラーから降ろしたコンテナは、どこに持っていくのですか？

A：ストラドルキャリアという機械で、コンテナ船がやって来るまで敷地内に保管します。船が来たら、目の前にあるガントリークレーンで船に積み込んで目的地に運びます。

Q：コンテナの重さはどの位ですか？

A：コンテナの中の荷物によりますが、最も重い荷物で30トンはです。

Q：コンテナは全部運び出されて無くなることはありますか？

A：積み出された後から、トレーラーで運ばれてきますので、無くなることはありません。

Q：コンテナには何が入っていますか？

A：生活に使う様々なものが入っています。最も多いのは、岩沼の工場で作られたタイヤです。アメリカやカナダに輸出しています。また、冷凍コンテナには魚や野菜なども入っています。

Q：仙台港は出来てどの位たちますか？

A：昭和42年に作り始めて、昭和46年に船が入れる様になりました。出来てから40年位たっています。

3. おわりに

“みなと”は、普段、皆さんの目に触れることが少ない縁の下の力持ちのような存在ですが、校外学習をとおして将来を担う地元の子供たちに、実際に見て知って頂くことで、暮らしを支えるみなとの役割について理解を深めるお手伝いが出来たと思っております。

当事務所では、4月から総合学習及び出前講座への対応を再開しております。暮らしを支える“みなと”について学んで頂くと共に復旧の様子を学んでみてはいかがでしょうか。